

## 障害者施設等病棟の主な受け入れ対象

1	<p>重度の肢体不自由者（脳卒中後遺症、認知症を除く）</p> <p><input type="checkbox"/> 身体障害、肢体不自由者（下肢） 1級、2級に該当（脳卒中後遺症、認知症を除く）</p> <p>〈身体障害者障害程度級（肢体不自由者・下肢）〉</p> <p>1級：①両下肢の全機能を全廃したもの ②両下肢を大腿の1/2以上欠くもの</p> <p>2級：①両下肢の機能の著しい障害のもの ②両下肢を大腿の1/2以上欠くもの</p> <p><input type="checkbox"/> 脳卒中後遺症、認知症治療なしで他病での日常生活自立度（寝たきり度）ランクB以上に該当</p>
2	<p>脊髄損傷等の重度障害者</p>
3	<p>重度の意識障害者_ 脳卒中の後遺症であっても、次の状態である場合には重度の意識障害者となる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意識レベルがJCSでⅡ-3(又は30)以上又はGCSで8点以下の状態が2週間以上持続している患者</li> <li>・ 無動症の患者(閉じ込め症候群、無動性無言、失外套症候群)</li> </ul>
4	<p>筋ジストロフィー患者及び難病患者</p> <p>筋ジストロフィー、多発性硬化症、重症筋無力症、スモン、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、ハンチントン病、パーキンソン病関連疾患[進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、パーキンソン病(ホーエン・ヤールの重症度分類がステージ3以上であって生活機能障害度がⅡ度又はⅢ度のものに限る)]、多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症、シャイ・ドレーガー症候群)、プリオン病、亜急性硬化性全脳炎、ライソゾーム病、副腎白質ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症、慢性炎症性脱髄性多発神経炎及びもやもや病(ウイルス動脈輪閉塞症)</p>